

4 「接待館」・「六日市場」の伝承について

(1) 「接待館」の伝承

遺跡名にもなっている「接待館」の伝承についてまとめる。また、伝承が記された地誌類ではないが、「接待」の名称が記される検地帳も紹介する。

- ①「寛永十八年下衣川村検地帳」 寛永18年（1641年）（佐々木元實 1995「近世の衣川」所収）

せったや屋敷 仁左衛門

- ②「寛文貳年下衣川村御検地帳」 寛文2年（1662年）（衣川村1988「衣川村史Ⅳ」所収）

氏家主水分せったい屋敷彦八郎前惣右衛門

- ③「平泉舊跡志」 相原友直 宝暦10年（1760）（平泉町史編纂委員会1993「平泉町史資料編二」所収）

一 攝待所 下衣川にあり

- ④「封内風土記」 田辺希文 安永元年（1772年）（鈴木編1975「復刻版仙台叢書」所収）

號雪踏屋館 傳伝 藤原秀衡母堂所居

- ⑤「膽澤郡下膽澤下衣川村風土記御用書出」 安永6年（1777年）（衣川村1988「衣川村史Ⅳ」所収）

一 古館 五ツ

一 セツタヤ館 攝待 南北三拾壱間 東西六拾四間

秀衡朝臣御母公居館之由申伝候当時畑に罷成居候事

一 屋敷名 八拾四

一 並木屋敷 四軒・・・

一 攝待屋敷 一軒

- ⑥「岩手県管轄地誌」 明治13年（1880年）（衣川村1989「衣川村史Ⅴ」所収）

古跡 古館 接待館ト伝フ本村ノ東南字七日市場ニアリ昔時藤原秀衡ノ母之レニ居レリト云フ

- ⑦「衣川の古跡」 千葉孫左衛門編 明治20年（1887年）前後（衣川村1984「衣川村史Ⅲ」所収）

接待館跡 藤原秀衡の母堂慈善のため往來の旅人に接待せし所なり

- ⑧「衣川誌」 梅尾禪牛 明治30年（1897年）前後（衣川村1984「衣川村史Ⅲ」所収）

接待館跡 字六日市場にあり。即ち神明社の北東、関の桜の側にしてその広袤東西六十四間南北三十一間あり。此館は往古衣の関の跡にして后年秀衡朝臣の母公が居館を構えり。又一説に藤原朝臣三衡には佛法に帰依するを以て、母公も其意に随い、我は一層往來の行人へ接待を施さんと夫々の施物を往來する行人へ與施せし所なりと。故に接待館と名付けたと云う。

(2) 「接待館」の名称・伝承の変遷

地誌類に記されたものではないが1641年の①「寛永十八年下衣川村検地帳」には「せったや屋敷 仁左衛門」の記載があり、17世紀前半にはすでに接待館に関連する「せったや」の地名が存在していたことがわかる。そして、1662年の②「寛文貳年下衣川村御検地帳」には「氏家主水分せったい屋敷」と記され、「せったや」＝「せったい」であることを理解させ、呼称にバリエティがあることもわかる。

各文献に記される名称をみると、1777年の⑤「風土記御用書出」以前は「せったや」の名称が多いことが分かる。このことから、本来地元では「せったや」と呼称していた可能性が想定される。ただし、1662年の②「寛文貳年検地帳」では「せったい屋敷」、1777年の⑤「風土記御用書出」の屋敷名

では「攝待屋敷」が記され、「せったい」の呼称も混在していた可能性もある。

おそらくは、「平泉舊跡志」編纂の際に「せったや」を相原友直が「接待」と解釈して旧跡として理解し、「摂待」の漢字を当てはめたのであろう。しかし、この「接待」の文字はすぐには影響が及ばず、1772年の④「封内風土記」、1777年の⑤「風土記御用書出」には旧来の「せったや」の名称を使用されている。その後、近代に至る過程で、「せったい」の読みと「攝待」の文字が定着していったと想定される。

地誌類に登場する最も古い事例は、③「平泉舊跡志」(1760)である。これには旧跡名と位置のみ記され、具体的な伝承内容には触れられていない。そして1770年代の④「封内風土記」、⑤「風土記御用書出」では「藤原秀衡の母の居所」という旨が記されるが、名称起源などの説明はない。1880年の⑥「岩手県管轄地誌」でも④「封内風土記」、⑤「風土記御用書出」の記述に準拠した内容になっている。そして、1887年前後に編纂と推測される⑦「衣川の古跡」では「藤原秀衡の母堂慈善のため往来の旅人に接待せし所なり」と「接待」の名称の起源説明も付されるようになる。さらに1897年前後の⑧「衣川誌」では「此館は往古の衣の関跡にして・・・」と「衣関」との関連が記され、秀衡の母の行為もより具体的に記されている。このように時代が下るにつれ、伝承の内容が付加されていく過程が明瞭に現れている。

接待館伝承一覧

番号	文書名	年代	名称	伝承内容
①	寛永十八年下衣川村検地帳	1641年	せったや屋敷	検地帳
②	寛文式年下衣川村御検地帳	1662年	せったい屋敷	検地帳
③	平泉舊跡志	1760年	攝待所	名称・位置のみ記載
④	封内風土記	1772年	雪踏屋館	秀衡母の居所の旨記載
⑤	下衣川村風土記御用書出	1777年	セツタヤ館	規模・秀衡母の居所の旨記載
⑥	岩手県管轄地誌	1880年	接待館	秀衡母の居所の旨記載
⑦	衣川の古跡	1887年前後	接待館	「接待」の名称起源説明
⑧	衣川誌	1897年前後	接待館	秀衡母の居所、衣関との関係、「接待」の名称起源説明

想定される伝承の変遷は、

- ①17世紀前半 「せったや」と呼称される地名があり、屋敷名にもなる。
- ②17世紀後半 「せったや」から変化し「せったい」の呼称も併用される。
- ③1760年頃 「平泉舊跡志」編纂の際、「せったや、せったい」に「攝待」の文字を当てる。
- ④1770年代 「せったや」、「攝待」の名称が併存し、秀衡母の居所との伝承が付加される。
- ⑤18C末～幕末 「攝待」の名称が定着し、「せったや」は廃れる。
- ⑥近代以降 「攝待」名称起源説明が付加される。

近代以降に「接待館」の名称起源説明が付されるのは、謡曲「攝待」が関与していると思われる。謡曲「攝待」は、義経主従が奥州に下る途中、佐藤継信、忠信の母である老尼が設けた山伏攝待の宿に泊まり、佐藤兄弟の忠勇を老尼に語り聞かせる物語で、佐藤兄弟の母の心情も描かれている（大曾根他編1998）。近世に成立した「攝待」の名称と「(秀衡の)母の居館」という伝承が、謡曲「摂待」を連想させ、「旅人を摂待する館、故に接待館」との名称説明が創作されたのではないだろうか。

(3) 六日市場の伝承

遺跡名にもなっている「六日市場」の伝承についてまとめる。

①「寛文貳年下衣川村御検地帳」 寛文2年(1662年)(衣川村1988「衣川村史Ⅳ」所収)

六日一場屋敷 藤左衛門 氏家主水分

②「膽澤郡下膽澤下衣川村風土記御用書出」 安永6年(1777年)(衣川村1988「衣川村史Ⅳ」所収)

一 舊跡

一 古宿、一 宿、一 六日市場、一 八日市場、一 七日市場 右五ヶ所何茂往古之駄馬之由申傳候

③「衣川の古跡」 千葉孫左衛門編 明治20年(1887年)前後(衣川村1984「衣川村史Ⅲ」所収)

旧市場跡 六日市場、七日市場、八日市場、十日市場等の跡あり、傳へいふ。平泉全盛の頃の市街地なりと(或は云ふ安倍氏の頃の市場なりと)

④「衣川誌」 梅尾禪牛 明治30年(1897年)前後(衣川村1984「衣川村史Ⅲ」所収)

この地あたりは藤原氏全盛の頃、子弟宗族の邸宅を此処に構うに当り、市廛商戸軒を聯ね薨を並べ、街衢四通五通にして頗る殷賑を極めたりしが、后幾多の星霜を経るに従い蕩然として地を佛い、今は幾点の茅屋其の間に散在するを見るのみ。

(4)「六日市場」伝承の変遷

六日市場に関する伝承は「接待館」に比較すると少ない。1662年の①「寛文貳年下衣川村御検地帳」から「六日一場」の地名が存在したことが示される。寛永検地帳には「六日一場屋敷」の記載はないが、出土遺物等から、六日市場屋敷の成立は寛永年間までさかのぼると推測され、17世紀前半から「六日市場」の地名が存在したと推測される。1777年の②「下衣川村風土記御用書出」では他の市場地名とともに「何茂往古之駄馬之由申傳候」とされ、時代等は説明されていない。それに対して1887年前後③「衣川の古跡」では「傳へいふ。平泉全盛の頃の市街地なりと(或は云ふ安倍氏の頃の市場なりと)」と時代についての言及が付加される。そして、さらに1897年前後の④「衣川誌」では文飾を多くし、具体的な記述になり、時期も「藤原氏全盛の頃」と特定される。このように時期が下るにつれ、内容が付加されていく過程は、「接待館」の伝承と共通するものである。

引用・参考文献

- 小原千枝 2006 「安倍氏、奥州藤原氏と衣川」『歴史論集第Ⅱ期第八集』 宮城学院女子大学人間文化学科
 大曾根章介他編 1998 「日本古典文学大事典」 明治書院
 衣川村 1984 「衣川村史Ⅲ」資料編2
 衣川村 1988 「衣川村史Ⅳ」資料編3
 衣川村 1989 「衣川村史Ⅴ」資料編4
 佐々木元實 1995 「近世の衣川」
 鈴木武夫編 1975 「復刻版仙台叢書 封内風土記第三巻」 宝文堂
 平泉町史編纂委員会 1993 「平泉町史」資料編二